

▼中国

社会活動の会 書道の部

熊野 隆史(RCC)

3年ぶりの再開、広島原爆養護ホーム「矢野おりづる園」の書道である。100人の入所者の内、20人程度を職員2人で支え、セツティングから道具の整理までを担当する。要介護の人も含め、資格は被爆者の人たち。原爆に遭遇した人や一週間以内に市内に入った人が対象である。

77年経つと高齢者ばかりである。一人部屋であるが、食事は揃つてする。入浴などの介護、所内での活動で生活する。家族や知り合いが面会に来る以外は、自宅に帰ることはほとんどない。外部者との対面は特別な日以外は無いので、書道も楽しみにされている。

書きたい字は沢山あるが、忘れている。中には、自分の名前が書けない人も。思い出すにも時間がかかる。手を動かし脳を活性化させると、傍から見ている一人ひとり、楽しそうである。小さなボランティアであるが、で



「書道」風景



原爆養護ホーム「矢野おりづる園」

きる限り、続けて行きたい。

朗読活動の部

森岡 三恵(RCC)

現在活動を続けている朗読活動の報告です。「ひろしま音読の会」は緊急事態宣言中もオンラインで読み合わせを続けました。そして、朗読会を動画で発信しました。対面の朗読会は、今年3月末と8月初めに3年ぶりに感染防止対策を徹底して行いました。今後もし生の朗読を聞いていただけるような活動を続けてまいります。

私たちは社会活動の中で、ボランティアとして、私たちの経験から皆様に届けられるものを自分なりに解釈して発信しております。

何か経験をお持ちの方は沢山いらつしやいます。それをボランティアとして消化し、発表できる「場」があると考えます。戦後77年を迎え、世の中が分断することが懸

念される昨今、多様性の世の中でも、自分なりの思いを社会に発信できる「場」でもあります。少しでも自分で何か発信したい方は、今までにない新しい分野でも構いません、参加されて発信されることを望みます。世代交代が近づく中、何とか継続できることをやってみませんか。



アステールプラザでの朗読会